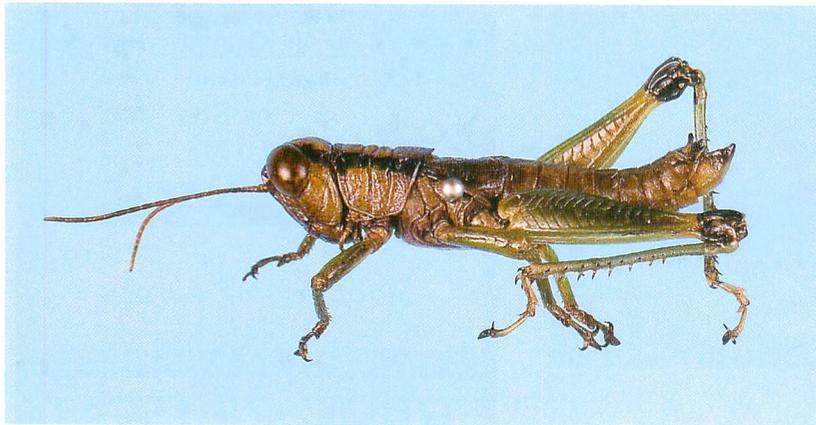




Title	[和名] オキナワフキバツタ [学名] Tonkinacris ruficerus Ito, 1999
Author(s)	伊藤, 元
Citation	琉球大学資料館（風樹館）収蔵資料目録 第1号：琉球大学資料館（風樹館）収蔵タイプ標本目録(1): 14
Issue Date	2009-03-31
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/12653
Rights	

オキナワフキバッタ

Tonkinacris ruficerus Ito, 1999

Paratype (RUMF-ZI-15992)

原記載 : Ito, G., 1999. Descriptions of three new species of Podisminae (Orthoptera : Acrididae) from the Ryukyu Archipelago, southern Japan. Entomol. Sci., 1999, 2(4): 503-510.

タイプ標本データ

ID	標本種別	採集場所	採集日	採集者	性別	保存状態
RUMF-ZI-15991	Paratype	日本沖縄県沖縄島名護市羽地大川	1980/07/23	小濱継雄	♂	乾燥
RUMF-ZI-15992	Paratype	日本沖縄県沖縄島名護市久志-大川	1996/10/11	東清二 他	♂	乾燥
RUMF-ZI-15993	Paratype	日本沖縄県沖縄島名護市羽地大川	1980/09/14	小濱継雄	♀	乾燥
RUMF-ZI-15994	Paratype	日本沖縄県沖縄島国頭村与那覇岳山麓	1998/07/26	村山望	♀	乾燥
RUMF-ZI-15995	Paratype	日本沖縄県沖縄島国頭村奥	1998/09/13	豊口敬・村山望	♀	乾燥

本種はバッタ科では珍しく、裸子植物（リュウキュウマツ）の葉を食物として利用することができる。リュウキュウマツ林で見られることが多いという情報があったので、もしかするとマツの葉を食べるのではないかと思い、飼育してみることにした。しかし、当時筆者が住んでいたのは札幌で、飼育を試みたのは冬であった。そこで、写真家でヤンバルクロギリスの発見者である村山望さんをお願いしてリュウキュウマツの葉を送ってもらって、それを確かめることができた。リュウキュウマツのみ与えて飼育したところ、3週間以上も生存したのである。しかし野外では何を主に食べているのかまだ確認していない。ホロタイプ（1♂）、パラタイプ（4♂13♀）が北海道大学農学部に、またパラタイプが琉球大学資料館、大阪市立自然史博物館（1♂1♀）に保管されている。種小名の *ruficerus* は、赤色をした触角に因む。本種が属する *Tonkinacris* 属は、沖縄本島に本種、八重山諸島に *T. yaeyamaensis* が分布し、国外では中国とベトナムに分布するが、台湾には分布していない。*Sinopodisma* 属と同様、生物地理学的に興味深い材料である。

(伊藤 元)